



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

レバノン：連続して衝突が発生

主席研究員 中島 勇

シリアでの内紛が激化した後、隣国レバノンへの波及が懸念されていた。しかし、これまでは、戦闘を避けるためにシリア人が避難民として流入するものの、時折、国境地帯で反体制派を追跡していたシリア軍がレバノン側に越境したり、シリア側での戦闘の流れ弾がレバノン側に着弾するなどの事故はあったが、紛争の波紋がレバノン側に飛び火したような事件はなかった。

しかし、5月中旬に北部トリポリで戦闘が発生、その波紋がベイルートに及ぶ事態が生まれている。5月12日、シリア難民を支援していたウラマー（法学者）が拘束されたことから、トリポリの親シリア派と反シリア派との衝突が激化し、戦闘は16日まで続いた。レバノン政府軍が派遣されたが、20日には、そのレバノン軍の道路検問所でスンニ派の法学者と護衛が射殺される事件（事故）が起きた結果、トリポリでの対立がベイルートまで波及することになった。

ベイルート近郊では、トリポリでのウラマー射殺に抗議するグループが道路を封鎖し、バリケードを作り、親シリア派のスンニ派勢力との戦闘に発展した。同親シリア勢力は、ヒズブッラーに近いと報道されていた。

レバノン国内での対立が激化する中、今度は、22日にシリアのアレッポでイランからの巡礼から帰る途中のシーア派レバノン人11人が反政府勢力に拘束される事件が起きた。報道を整理すると、11人が乗るバスがアレッポ近郊のAzazで停止させられ、男性らが拘留された。同じバスに乗っていた女性乗客らは、拘束されていない模様である。同11人を拘束したグループは、当初、11人がシリア政府に協力するヒズブッラーの活動家ではないかと疑ったが、その後、政府側に拘留された反体制派の人間との交換用の人質にされたようだ。同拘束の情報が11人の地元であるベイルート南部やベッカー高原に伝わり、抗議デモが発生した。ヒズブッラーのナスラッター書記長は、同事件はレバノン政府が対処すべきであるとして、報復を禁止したと報道されている。

ヒズブッラーは、シリア内紛では、アサド政権を支持してきた。ヒズブッラーの活動家がシリアでの住民弾圧に協力をしているとの憶測もあり、レバノンのスンニ派はヒズブッラーへの不信を強めていた。ナスラッター書記長が、支持者らに冷静な行動を取るよう求めるのは当然だろう。レバノン国内で連続的に起きている事件が、今後も続くかどうか注視する必要がある。